

環境共生産地 i n f o ネット

＊ ＊ 土のメタボ診断で環境にやさしい土づくりを ＊ ＊

最近、「メタボ」という言葉が、市民権を得て、健康診断では肥満度チェックが行われていますが、田んぼや畑も、肥料をやりすぎると、土壤養分が過剰に蓄積します(→ 土のメタボ！)。

土のメタボは、肥料の無駄使いであり、土壤環境に対しても負荷を与えています。このため、田畑の土もメタボ診断(=土壤診断)を行って、養分が過剰に蓄積している場合は肥料を減らすなど、環境と財布にも？にやさしい土づくりが必要です。

農業研究センターで簡易土壤分析システムを開発！

土の健康状態をチェックし、環境にやさしい土づくりを進めるためには、定期的な土壤診断が必要です。

しかし、土壤の分析は、高価な分析装置や、実験施設、専門の技術や知識などが必要で、農業者が気軽に行えるものではありませんでした。

このため、県農業研究センターは、安価で、しかも分析操作が簡易な土壤分析システムを開発するため、県内のベンチャー企業と共同研究を進め、この秋には、全国に先駆け県内で先行販売することになりました(県が有する特許技術)。

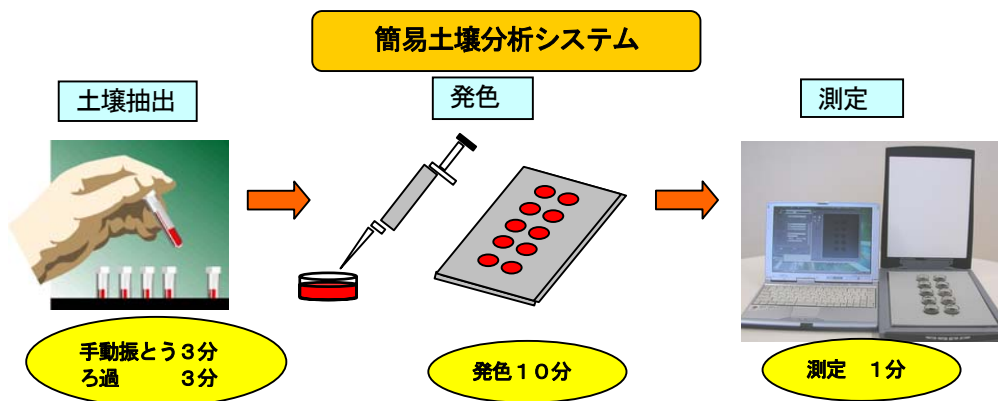
システムの構成は、右写真のとおり、パソコンとスキャナです。土壤の抽出液を試薬で発色させ、その色をスキャナで読み込むと、パソコンのディスプレイ上に分析結果が出るというものです。

操作は簡単で、特別な知識や経験のない方でも容易に土壤分析ができます。しかも、分析時間や分析コストは、従来の10分の1程度と、安価で迅速な



県が開発した簡易土壤分析システム ↑

分析が可能です。簡易分析であるため、1ミリグラム単位まで正確な分析値ではありませんが、土の「簡易メタボ診断」として、農家の方々が手軽に土壤分析に取り組めるので、肥料の無駄を省き、環境にやさしい土づくりが広く実践されることが期待されます。



雑穀生産者と消費者との意見交換会について

～「全国雑穀サミット in かるまい」(平成21年9月12日、13日)～

本県は、古くから県北地方を中心に雑穀の生産が行われ、現在では、全国の雑穀生産量の6割を占める日本一の産地となっています。雑穀は、健康食ブームの中で人気が高まっており、きれいな水や空気など豊かな自然環境に恵まれた本県は、まさに、健康で安全・安心な雑穀の生産に適した産地といえます。

今年は、雑穀の主要産地の軽米町において、9月12日、13日に、全国の雑穀生産者、流通業者などが一堂に会し、雑穀を盛り上げるイベントとして、「全国雑穀サミット in かるまい」が開催されます。



環境と共生する産地づくり運動推進協議会では、このイベントと連携して、13日に雑穀生産者と消費者との意見交換会を開催します。

今回は、いわて生協の組合員の方々と、軽米町長倉地区の雑穀生産者の皆様にご協力いただき、ほ場を見学しながら、生産者と消費者の相互理解を図るため、農薬を減らす生産者の苦労や、消費者の疑問など、お互い知りたいこと、知って欲しいことについて意見を交わす予定です。

全国雑穀サミットHP <http://www.pref.iwate.jp/~rakuen/zakkoku/>

シリーズ これってどんな意味?

このコーナーでは、環境と共生する産地づくり基本計画にでてくる様々な用語等について説明していきます。

第7回めは「化学肥料と有機質肥料」についてです

お米や野菜など農作物を生産するためには、肥料が必要です。肥料が足りないと作物は十分生育することができません。

近代農業以前は、肥料として、人糞、魚かす、油かすなど、天然由来の有機物を活用していました。このように、動植物質を原料として作られた肥料が、**有機質肥料**です。現在でも、肥料取締法により、魚かす、肉かす粉、油かす、蒸製毛粉などを原料とした肥料は、有機質肥料と定められています。

一方、科学の進歩と共に、チッソ、リン酸、カリなど、生育に必要な成分が明らかとなり、無機質原料から肥料を製造するようになりました。これが**化学肥料**です。現在、使われている肥料の大部分は、化学肥料です。化学肥料は、特定の成分を含有し、速効的で、肥効をコントロールしやすいのが特徴です。

これに対し、有機質肥料は、単一の物質ではないことから、微量元素や腐植など様々な成分を含んでいます。また、有機質肥料は、土壌中の微生物に分解され、無機物質に変化してから作物に吸収されるため、緩効的です。分解の進み方によっては、思わぬ時期に肥料の効きめが現れるなど、肥効のコントロールが難しい場合があります。

このように、化学肥料、有機質肥料には、それぞれ特徴がありますので、それらを良く理解しながら有効に活用することが必要です。

主な化学肥料

区分	肥料の種類
チッソ肥料	硫酸アンモニア、硝酸アンモニア、尿素
リン酸肥料	過リン酸石灰、溶成りん肥
カリ肥料	塩化加里、硫酸加里